

第219回 「元気に百歳」クラブ「道草」の句会開催

WBC 野球の真っ只中です。わが侍ジャパンは、MLB 所属の大谷選手、吉田選手が活躍し、日本軍に参加したお母様が日本人の MLB 選手であるヌートバー選手も、これに負けず劣らずの大活躍で、第一次予選を突破しました。

連日、東京ドームに顔を見せるヌートバー選手のお母様の喜びも一入ではないでしょうか。以後、アメリカのマイアミで行われる準優勝戦と優勝戦、今や WBC での優勝こそが、使命であるかの如き国民集団となっている侍ジャパンです。でも選手諸君は、あまり固くならず楽しんで欲しいですね。

哀しいお知らせがあります。一昨年まで「元気に百歳」クラブ俳句サロン「道草」の主宰としてご尽力いただきました、住田道男先生が逝去されました。俳句サロン「道草」関係の方々もお通夜、お葬儀に参列されましたが、改めまして謹んでご冥福をお祈り申し上げます。先生のお詠みになられた句が披露されていましたが、「雨欲しや狭庭の露の細きこと」は、忘れられません。

3月の「道草」句会ですが、通信句会＋リアル句会の締めは、いつものように10日(金)に参加した方の選句発表会という形で進行しました。選句された優秀句と、さらにその中から選ばれた天賞句を下述します。

今月の兼題

兼題1 「土筆」

兼題2 「彼岸」

兼題3 「当季雑詠」

今月の投句参加

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の17名。

リアル句会への参加

創風さん、一光さん、和感さん、明峰さん、荻女さん、柴楽さん、錦流さん、晶如さん、傘吉さん、白然の10名。

今月の優秀句と天賞句

兼題1. 「土筆」

◎『土筆立つ向かふの向かふ富士の山』	白然	天4㊦6
◎『土筆愛で老犬ゆるりと野に臥せり』	栄女	天3㊦6
◎『吾はガリバー小人のごときつくし摘む』	荻女	天1㊦2
◎『川風の匂う土筆を籠に摘む』	明峰	☆7
◎『土筆摘む幸せありき侘び住い』	多佳	㊦5

兼題2. 「彼岸」

◎『酒支度よし弟の初彼岸』	白然	天1☆8
◎『彼岸入目黒不動の鐘響く』	一光	天1㊦4
◎『逝きし人思ひ彼岸の空滲む』	柴楽	天1㊦2
◎『彼岸過ぎ墓洗ひみる親不孝』	まさあき	☆8
◎『あちこちに細き煙の彼岸墓地』	多佳	㊦6

兼題3. 「当季雑詠（＝仲春＝）」

◎『花ミモザパン屋の列の最後尾』	荻女	天2㊄4
◎『合格の知らせ届きて春来たる』	歌多音	天2㊄3
◎『折り紙の舟たゆたひて春の川』	多佳	天1☆7
◎『定位置のピアノの上の雛かな』	白然	天1☆7
◎『若布刈舟逆光にみて長き竿』	晶如	☆7
◎『春立つや青空淡き色となり』	明峰	㊄4

兼題1では、白然の句「土筆立つ向かふの向かふ富士の山」が、天賞四つをいただきました。小さな土筆と富士山との対比、間近の土筆と遠い富士山の遠近感、句のスケールが大きいとの評価を受けました。有難うございます。ただ、中七の「向かふ」は「向かう」が良いようです。次に、栄女さんの句「土筆愛で老犬ゆるりと野に臥せり」が、天賞三つを獲得しました。土筆の立つ横で老犬が寝転がっている野原、この長閑さに春を感じた読者、すっと立っている土筆と長閑な春を過ごす老犬に、一票が投じられました。

次に荻女さんの句「吾はガリバー小人のごときつくし摘む」が、天賞一つを獲得しました。上五でいきなり「吾(あ)はガリバー」と、宣言するファンタジックな一句、楽しいですね。そしてガリバーになつての振舞い、楽しいお伽の世界に一票でした。次に、天賞は付きませんでした。明峰さんの句「川風の匂う土筆を籠に摘む」が、最多得票賞(☆印)を獲得しました。上五の「川風の匂う」が、本当に漂ってくるようで、摘まれて籠に入れられていく土筆が動画のように見えてきます。次に賞は付きませんが、多佳さんの句「土筆摘む幸せありき侘び住い」が、高得票を獲得しました。この句は、まるで前述の明峰さんの句に裏書された充実感が満ちています。たとえ質素であっても、長く続いて欲しい平和ですね。下五の「侘び住まい」がキラリと光っています。

兼題2では、白然の句「酒支度よし弟の初彼岸」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)をいただきました。酒好きの弟、一緒によく飲んだ弟、寡黙でしたが、苦しかった家業の経営状況のことなど話してくれました。初彼岸、弟の好きな酒と一緒に飲みたいものです。次に、一光さんの句「彼岸入目黒不動の鐘響く」が、天賞一つを獲得しました。今年も彼岸の入りを知らせる目黒不動尊の鐘の音、亡くなった家人はじめ、友人、知人の彼岸を、鐘の音の響きに合わせて祈りましょう。彼岸入りの静かな一日の一コマです。

次に柴楽さんの句「逝きし人思ひ彼岸の空滲む」が、天賞一つを獲得しました。この逝きし人とは、柴楽さんにとってどんな方だったのでしょうか。彼岸の空は涙で滲んだのでしょうか。次に、天賞は付きませんでした。まさあきさんの句「彼岸過ぎ墓洗ひある親不孝」が、最多得票賞(☆印)を獲得しました。彼岸を過ぎて墓を洗うとは・・・、行けなかった理由も多々あるとは思いますが、内心には忸怩たるものを感じておられるのでしょうか。是非とも詫びながら丁寧に洗ってあげてください。

賞には輝きませんでした。多佳さんの句「あちこちに細き煙の彼岸墓地」が、多くの票を獲得しました。情景は良く見えてくる句ですが、もう一步、人の動きか墓の情景をプラスしたい句でした。

兼題3では、荻女さんの句「花ミモザパン屋の列の最後尾」が、天賞二つを獲得しました。豪華なミモザの花を、パン屋さんの最後尾からではありますが、堪能してきている情景です。ゆったりとした春の情景が、読者には見えてきましたね。次に歌多音さんの句「合格の知らせ届きて春来たる」も、天賞二つを獲得しました。春の喜ばしい知らせとは、一番に挙げられるのが、この合格通知です。お孫さんたちの喜びが諸に伝わってきます。一緒に喜んであげましょう。

次に、多佳さんの句「折り紙の舟たゆたひて春の川」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)

を獲得しました。中七の「舟たゆたひて」の情景、春の川に揺れながら下っていく折り紙の小さな舟が読者の共感を得ました。また、この中七は「う音便」にして、「舟たゆたうて」と読めると思います。次に白然の句「定位置のピアノの上の雛かな」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。老夫婦だけの暮らしになり、毎春ピアノの定位置に置かれる陶器の一对の雛人形、嫁に出した娘たちの幸せを願います。

次に、晶如さんの句「若布刈舟逆光にみて長き竿」が、天賞は付いていませんが、最多得票賞（☆印）を獲得しました。晩冬というか、初春というか、北九州地区で行われる神事が取り上げられました。逆光を受け、長い竿の動きだけが見えている、幻想的かつ神秘的な光景ですね。まさに最多得票でした。次に、賞は逸しましたが、明峰さんの句「春立つや青空淡き色となり」が、多くの票を集めました。春の青空は、暖かさと共にブルーも淡い色になります。読者はその変化に一票を投じました。

今日は朝から雨が降っています。春の雨は少し風もあり、幾分ひんやりとしているようです。今週は住田先生のお葬儀に始まり、亡くなった俳友の「偲ぶ会」もあり、気持ちが落ち着きませんでした。来週はWBC野球の準優勝戦、優勝戦があります。侍ジャパンの優勝を祈念し、明るい気持ちで臨むことにします。四月の句会は、どうぞよろしく。

（白然記）